

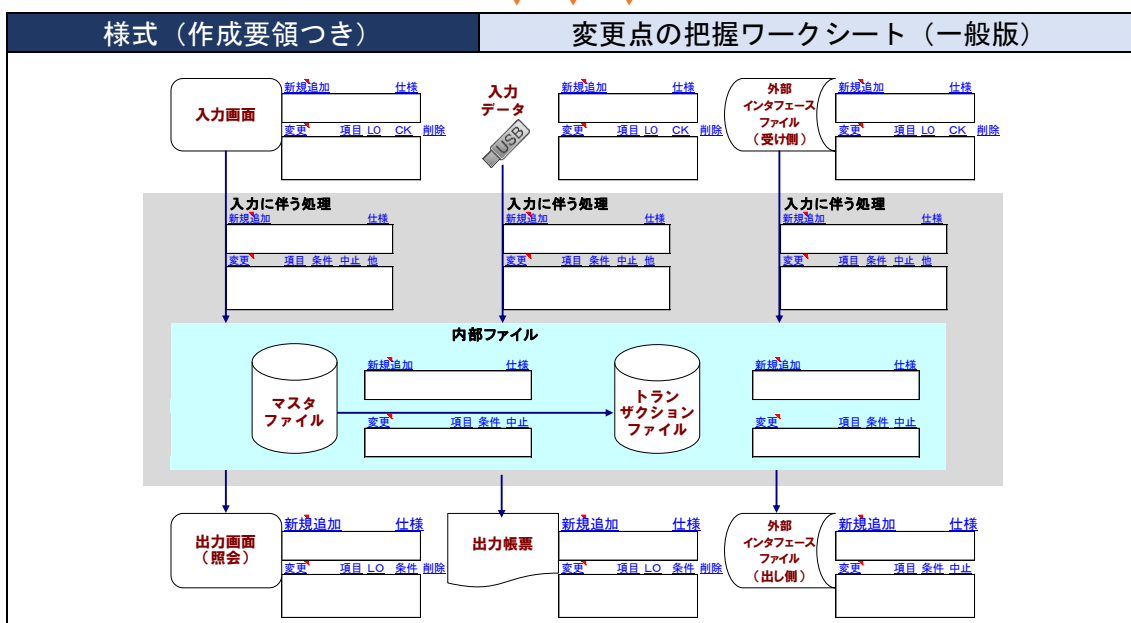


当キット開発の背景

弊社はこれまで変更管理（エンハンス）業務領域において、以下の二つの定型化・見える化手法をご提供してまいりました。

SW式工数見積り手法	▶ 変更業務の工数見積りを、ユーザからの変更依頼に基づきただちに見積りを実施する手法で、従来比数分の1の工数で高精度の見積りが可能な画期的手法です。
変更仕様書定型化手法	▶ 変更仕様書を40数通りに定型化して作成します。変更仕様作成プロセスが「見える化」されます。

今回、それらの前段作業である「変更点の把握ワークシート」から、この2手法に自動連携する方式を開発しました（下図の青字からリンクします）。



「変更点の把握ワークシート」を、ガイドに従って作成いただきますと



完成した「変更点の把握ワークシート」の指示に従って、**穴埋め式で上記二つの手法を実施することが可能**となります。



▼ ▼ この定型化で実施いただいた事例を蓄積しますと ▼ ▼

将来的には **変更作業のAI化が可能** となると考えられます。

ぜひご検討ください。

エンハンス倍速AIキット

のご案内



1. エンハンス倍速AIキットご利用の目的・ねらい

(1) 目的

- 1) 属人化している「エンハンス業務」を、発明的手法により**定型化・見える化**します。
- 2) 見積りを**従来比数分の1の工数で実現**し、的確な要件設定に貢献します。
- 3) 要件確認から変更仕様作成までを**一貫連携**します。
- 4) それらにより、テスト段階以降の**手戻り・手直しの絶滅**を目指します。

(2) ねらい

- 1) テスト段階以降の期間短縮も含め、「エンハンス業務」の倍速を目指します。
- 2) 「エンハンス業務」要員の早期育成、「脱属人化」が実現します。
- 3) 対象業務の定型化により、実績の蓄積が可能となり**AI化が可能**となります。

2. エンハンス倍速AIキットの内容

- ▶ 後掲の「エンハンス倍速AIキットの基本フレーム」をご参照ください。

3. エンハンス倍速AIキットの対象業務

- ▶ 以下のような各種の呼称のある「エンハンス業務」を対象とします。
 - ソフトウェア保守開発業務
 - ソフトウェア維持管理業務
 - ソフトウェア変更管理業務
 - ソフトウェア・エンハンス業務

4. エンハンス倍速AIキットの開発経緯

- ▶ 弊社は以下のように、「エンハンス業務」の改善・改革活動に関わり、その活動にご参加いただいた各社様のご協力・ご支援によりこのキットの内容が開発されました。

SLCM 研究会	<ul style="list-style-type: none"> • エンハンス業務改善手法の研究会 • 2009年～2013年 (株)データ総研・弊社の共催
SWEEPER 養成研修	<ul style="list-style-type: none"> • エンハンス業務改善手法のリーダー研修 • 2011年～2014年 (株)データ総研・弊社の共催
フォワード・コンソーシアム	<ul style="list-style-type: none"> • エンハンス業務改善推進を目的にした10社の企業連合 • 2015年～2018年 弊社主催
エンハンス業務革新アライアンス	<ul style="list-style-type: none"> • 生産性倍増を目指すエンハンス業務革新システムを開発する数社の企業連合 • 2017年～2018年 弊社主催
日経コンピュータ誌	<ul style="list-style-type: none"> • 2013年1月 「保守工数半減の勘所」 • 上野則男 寄稿
JUAS 主催セミナー	<ul style="list-style-type: none"> • 「ソフトウェア・エンハンス (保守) 業務を日本のビジネス強化の切り札に！」 • 2011年～主任講師

5. エンハンス倍速AIキットのご提供方法

- ▶ 以下のいずれかの方法によってご利用いただくことができます。
 - (1) 「現場中心での保守コスト大幅削減アプローチ」のご契約
 - このご契約をいただければ、そのサービス対象に含まれます。
 - (2) 単独購入
 - ワークシート・作成要領等を100万円(消費税別)でご提供いたします。
 - SW式見積り手法の導入ご支援、変更事項説明書のカスタマイズご支援は別途有償で承ります。



エンハンス倍速AIキットの基本フレーム

- ▶ エンハンス倍速キットの処理体系は次頁のようになっています。

A	<ul style="list-style-type: none">まずAの要求基礎条件指定プロセスで、受け付けた「変更依頼書」を基に、対応すべき処理内容を「ガイド」に従い明らかにします。検討結果により「変更点の把握W/S」が完成します。ここは創造的な判断が必要なプロセスです。1件100人日以上の大規模変更案件では、要件定義工程も必要です。
B	<ul style="list-style-type: none">Bの見積り条件設定プロセスは、「変更点の把握W/S」を基にその指定に従い、見積り条件を設定することによって、工数見積り基礎資料となる「変更規模ポイント算定W/S」が作成されます。
C	<ul style="list-style-type: none">Cの変更仕様設定プロセスでは、「変更点の把握W/S」を基に、その指定に従い変更仕様を記述する「変更事項説明書」を作成します。
D	<ul style="list-style-type: none">Dの影響調査プロセスは、変更事項の内容を受けて、影響調査すべき内容を絞り込み、必要な影響調査を実施します。このプロセスの成果物は、影響対象の「変更事項説明書」です。この方法で影響調査を実施するには別途「Rマトリクス」を作成する必要があります。

このように、

最初に作成する「変更点の把握W/S」から
見積りおよび変更仕様が
物理的に連携すること

によって

仕様の一貫性が
保証されます。

- ▶ このプロセスで使用される以下のワークシートはすべてシステム企画研修株式会社が各社のご協力をいただいて作成したオリジナルなものです。
 - 変更点の把握ワークシート
 - 変更規模ポイント算定ワークシート
 - 変更事項説明書様式

注： 変更点の把握ワークシートは、
一般版のほかに、データベース版、ABAP版、API版があります。
変更事項説明書様式は、一般版、オブジェクト指向版があります。



エンハンス倍速AIキットの処理関連図

